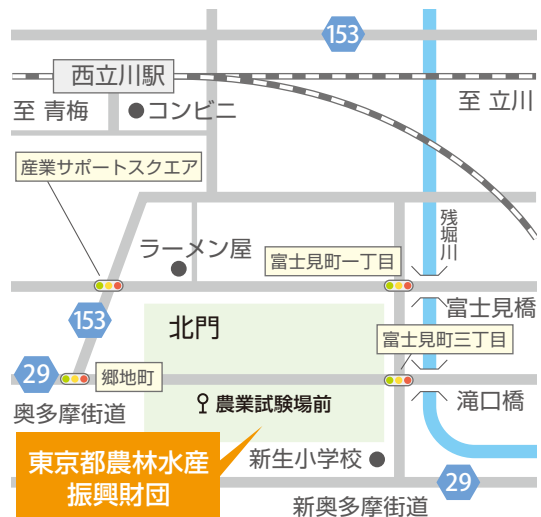


# チャレンジ農業支援センター 支援事例集

Support  
Case  
Examples  
2014



**チャレンジ農業支援センター**  
〒190-0013 東京都立川市富士見町 3-8-1  
TEL.042-524-3191 FAX.042-522-5398

公益財団法人 **東京都農林水産振興財団**  
Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

石油系溶剤を含まないインキを使用しています

東京の農家の**創意工夫**と  
積極的な**チャレンジ**を  
サポートします！

ヤナガワファーム

INDEX

- P1 \* 神津島パッションフルーツ
- P3 \* ミノールマルシェ
- P5 \* 森谷園
- P7 \* みずほ食彩工房
- P9 \* 小川ファーム
- P10 \* 株式会社彩の榊
- P11 \* ひかりフラワー
- P12 \* 加藤ファーム
- P13 \* 柳川ファーム
- P14 \* 愛情野菜専業農家ヤマヨシ
- P15 \* TOKYOX 生産組合
- P16 \* 小笠原諸島の農業
- P17 \* チャレンジ農業支援センターとは





デザイン・

PR

Support Case Examples

2014

神津島パッションフルーツ

# 神津島特産のパッションフルーツをもっと知ってもらいたい



良質水使用  
おいしい地下水を  
親増に使っています

海もいいけど。

東京都神津島産

# パッションフルーツ

神

神津島と言えば…  
青い海、白い砂浜、  
澄み渡った青空。  
甘酸っぱいパッション  
フルーツもお忘れなく。

J A 東京島しょ神津島店

## 相談内容

伊豆諸島の神津島では、新たな特産品の一環として数年前からパッションフルーツの生産を行っています。

しかし、神津島でのパッションフルーツの生産が広く知られていないことから売れ残りが発生し、規格外品とともに加工用として販売されたり自家消費されていました。

そこで、パッションフルーツの販売拡大や規格外品の利用を高め、ていく方策についてご相談を受けました。

### 恵 太陽の恵み、パッションフルーツ 神津島産だから、美味しい。

神津島は伊豆諸島の中間に位置し、瀬戸内海とほぼ同じ緯度にあたるため通年温暖な気候に恵まれています。白く細やかな砂質の広がる砂浜は、より一層、海の青さを美しく際立たせ訪れた人の目を離しません。水平線に沈む夕日もまた絶景です。



あしたば・レザーファンに加え、夏ならではの特産農産物として栽培している、神津島のパッションフルーツは豊かな水源、良質な水と太陽の恵みをたくさん浴び、こだわりをもって育てた南国果実です。7月中旬頃～8月まで(夏季限定)の神津島産パッションフルーツをご賞味ください。



### 水 おいしい地下水を栽培に使用 神津島にも選ばれた多幸湧水。

神津島には東京名湧水 57 選にも選ばれている湧水が多幸湧水とつぎ湧水の 2 か所あります。夏でも冷たく口当たりはやわらかで透明感抜群です。パッションフルーツ栽培にも同じ地下水を使用して育てております。



また「水配り神話」として島々の神様が集まり、命の源である「水」を分配した場所とされており、こういった伝説もあり神津島では水源が豊富にあります。



### 生産者のご紹介 農が見えるから 安心・安全 私たちが自信を持って育てています



私たちが育てたパッションフルーツは農薬を一切使用せず、一つひとつ丁寧に授粉作業を行い、完熟して自然に落ちるのを待ち収穫します。そのため香り・味共に最高の状態でお届け出来ます。

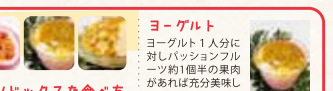


お客様の「美味しい」という声・笑顔のために、暖かい愛情もたっぷりそそぎました。そんなパッションフルーツを自信を持ってお届けします。

### 味 濃厚で甘酸っぱい 南国の果実。

パッションフルーツのここがすごい!  
ベータカロテンやビタミン B6・ビタミン C・葉酸などが豊富! 身体に嬉しい栄養をたっぷり含んでいるので、夏バテの時にもさっぱり食べられて、美肌効果も!

常夏の暑い日差しを浴びて育った神津島のパッションフルーツ、その南国果実特有の香りやさわやかな甘酸っぱい味が口に入れた瞬間に広がります。



パッションフルーツの 美味しい食べ方

ヨーグルト  
ヨーグルト 1 人分に対しパッションフルーツ約 1 個半の果肉があれば充分美味しく頂けます。

アイスクリーム  
アイスクリーム 1 人分に対し、パッションフルーツ約 1 個半の果肉があれば充分美味しく頂けます。

オーソドックスな食べ方  
上下 2 つに切りそのままスプーンですくって食べてください。食べる際(1 時間前位)に冷蔵庫で冷やしてから食べると美味しく頂けます。(酸味が弱くなるので、甘みが増して美味しく頂けます。)

食べ方  
冷凍庫に入れて凍らせシャーベットにしても美味しくいただけます。焼酎好きの方には、島の焼酎「盛若」という! のパッション割りもおすすめです。ジャムにして、焼きたてパンやクラッカーにつけても美味しいですよ!!



## 支援内容

パッションフルーツの PR 用ツールとしてポスターとパンフレットを作成し、島内の民宿や商店、観光案内所などに配布する提案をしました。

その結果、配布先の宿泊施設では観光客の皆さんに好評であり、多数の問い合わせをいただくことができました。

また、都内の有名レストランにもパッションフルーツのサンプルを送付して評価を依頼したところ、さっぱりした味が好感触で、早速注文する店舗もありました。

さらに、都内の郷土品流通プロジェクトとの連携や各地域のイベントや直売所等での販促・PR 活動を通して徐々に販路を拡大しています。今後は加工品等への活用を検討しています。



## デザイン

Support  
Case  
Examples

2014

ミノールマルシェ

自家産野菜を使った農家の  
手作りピザをご当地グルメに

## 相談内容

自家農園で生産された野菜の新たな販路として、旬の野菜をピザに利用して地域の人に販売したいと考え、手作りピザ店を始めました。栽培にこだわって生産した野菜が主役のピザを地域に認知してもらうため、「農家の手作りピザ」というコンセプトを表現したロゴ製作についてのご相談をいただきました。



## 支援内容

度重なる議論を交わし、「自家農園で生産した野菜で作ったピザである」というこだわりの部分にフォーカスを当てたロゴを提案しました。野菜が主役のピザを表わすため元気で新鮮な野菜たちを表現する抽象性をもったイラストを提案しました。

一般的なピザのイメージに加えて、「農家のピザ」を想起させる木製トレーのイラストや、カットされたピザの一片を加え、シンプルなイメージにまとめました。

平成 26 年度の第 3 回小平ご当地グルメコンテストで準優勝を獲得するなど、地元での知名度も上がってきています。



PR

Support  
Case  
Examples

2014

みずほ食彩工房

## バラ園と自家製コンニャクのPRで、 地域の名所と特産品が同時に誕生



### 相談内容

長谷川農園では 10 年前よりバラの栽培を行っており、開花時期には多彩な品種のバラを鑑賞することができます。

また、「誰もやっていないことをしたい」と言うオーナーの希望によって、バラ園を営む傍らで自家製のコンニャク作りを始めました。

農園では栽培したソバの灰を使ってコンニャクを固めるなど、製法にもこだわりのあるコンニャクづくりを行い、独特な食感が特長となっています。

バラ園とコンニャクをもっと多くの人々に知ってもらうことで、瑞穂町の活性化に貢献できればという思いから、農園の PR の進め方などをご相談いただきました。



### 支援内容

Web サイトやチラシでの PR を希望されていたので、これらの媒体に用いる写真の効果的な撮影方法などをアドバイスしました。

お客様の目に留まる写真が Web サイトとチラシに用いられるようになり、バラ園は瑞穂町紹介パンフレットにも登場するほどの有名スポットとなりました。

また、コンニャクは瑞穂町の「みずほブランド」に認定され、都内の有名飲食店からも注文を受けています。



## デザイン

Support  
Case  
Examples

2014

森谷園

新旧の良さを生かした看板で、  
伝統を未来へつなげる

## 相談内容

森谷園は明治の初期に創業したと言われる歴史のある老舗の茶園です。本園のお茶が東京都エコ農産物に認証されたのを機に、より特長のあるお茶栽培をPRするとともに、東京狭山茶の認知度向上を目指すため、PR用の看板更新のご相談をいただきました。



## 支援内容

まず茶園全体のイメージを高めるために、茶園に関する資料の発掘や看板に関する調査から始めました。

その過程で発見された茶園の過去の道具類の中から、昔の茶壺と茶箱のイメージを絵柄として採用し、看板自体の素材には、茶箱の蓋を開けた時の内側を連想させるブリキと木枠を提案しました。

また看板の裏手に柿の木があることから、熟柿との景観的なバランスも考えた配色で、時間が経つにつれて味の出る手書きのペンキ仕様の看板とすることをアドバイスしました。

農家の方が実現した単純に目立つ看板ではなく、周囲の景色と共存しながら経年変化によってより良く馴染む看板に仕上がっています。



デザイン  
Support Case Examples  
2014

小川ファーム

# 町田産の稀少な純粋はちみつを 発信する販促ツールを提供



## 相談内容

小川ファームは農業後継者として新たに蜂蜜の生産技術を習得すべく愛媛県で養蜂の研修を行って来ました。その結果、地元の町田市で純粋蜂蜜を生産販売できるようになりました。そこで町田市産の蜂蜜をPRするため、商品のラベルデザインや販促ツールの作成についてのご相談をいただきました。



## 支援内容

蜂蜜販売に使用する広告フライヤーと商品ラベル、蜂蜜の説明が記入された商品添付用タグのデザインを提案しました。  
純粋蜂蜜は一般に高価ですが、小川ファームではその品質を落とさず、お求めやすい価格で地元を提供したいと考えています。そのため全体的にナチュラルで高級感のあるデザインにすることにしました。  
女王蜂のキャラクターを取り入れたことで、地域の皆様に好評で「町田のはちみつ」は、市内のJA直売所などでも販売されることになりました。

直売所  
運営 Support Case Examples  
2014

農業生産法人 株式会社彩の榊

# 国産榊の復活を目指しつつ、 地域の住民に喜ばれる直売所を作りたい

## 相談内容

神棚に捧げる榊は、日本で流通している約9割が中国産となっています。彩の榊では、青梅や三宅島などで栽培されている榊や自生の榊を採取し販売することで、国産榊の利用を増やすことに力を入れています。三宅島産の榊については一緒に送られてくる農産物を地元農産物と合わせて販売することで、地域の住民に喜んでもらえるという考えから、直売所の開設に関するご相談を頂きました。



## 支援内容

農産物の流通や販売に詳しい専門家を派遣し、直売所の運営や店舗のPRに関するアドバイスをを行いました。  
単なる直売所の運営ではなく、国産榊の流通販売を拡大し、地域の消費者から支持されるような店舗づくりを目指していくため、地元の仕入先や三宅島の農家とも密接なコミュニケーションを取りながらの直売所開設を進めています。



販路拡大  
デザイン  
Support Case Examples  
2014

柳川ファーム

# 良質な有機農産物を 多くの人に食べてもらいたい

## 相談内容

野菜の有機栽培を行う柳川ファームでは、「新鮮でおいしい野菜を安定的に食べていただく」ことを希望しており、都市型循環農業の実現を目指しています。

青梅市商工会とも連携し、柳川ファームなどで栽培された有機農産物を有効に利用していきたいとの意向もあることから、専門家からのアドバイスを希望していました。



## 支援内容

青梅産の有機栽培大豆を利用した納豆を学校給食で食べてもらうように、青梅市の納豆製造業者と大豆の契約栽培を行う提案を行いました。

また、新たな販売先として、全国の有機栽培を専門に取り扱う仲卸業者や中央卸売市場の青果仲卸業者を農園に招いて、栽培されている作物を見ながらの商談を重ねた上で農産物を出荷することが可能になりました。

また、展示会用の販促物作成のご相談もいただいたので、のぼりとのれんのデザインを提案しました。

## デザイン

Support Case Examples  
2014

愛情野菜専門農家ヤマヨシ

# スタッフの愛情とこだわりが 表現されたロゴマークを作成

## 相談内容

農家のヤマヨシでは水菜やコカブなど多種の野菜を生産するとともに、プライベートブランドのニンジンジュース「赤い魔法」の販売も行っています。

ヤマヨシではスタッフも野菜も幸せになる農業を先代から受け継いでおり、栽培された野菜は東京都エコ農産物の認証を受けています。

この営みから生まれた「愛情野菜専門農家ヤマヨシ」という登録商標をイメージしたロゴマークの作成とロゴマークを入れた水菜の出荷ビニール袋のデザインをご相談いただきました。



## 支援内容

ロゴマークはヤマヨシの農場の特長であるカブのタワーをモチーフとし、心のこもった愛情たっぷりの野菜というイメージが伝わるようなデザインを提案しました。

ビニール袋には、ロゴマークにもあしらわれているカブタワーとハートを活用し、通常の袋よりも可愛いものになっています。

どちらもヤマヨシの農産物に込められた愛情を、手に取る人が感じられるような仕上がりととなりました。

日頃から中央農業改良普及センターの指導を受けており、また東京都の「農業経営サポート事業」を活用してホームページも制作しました。

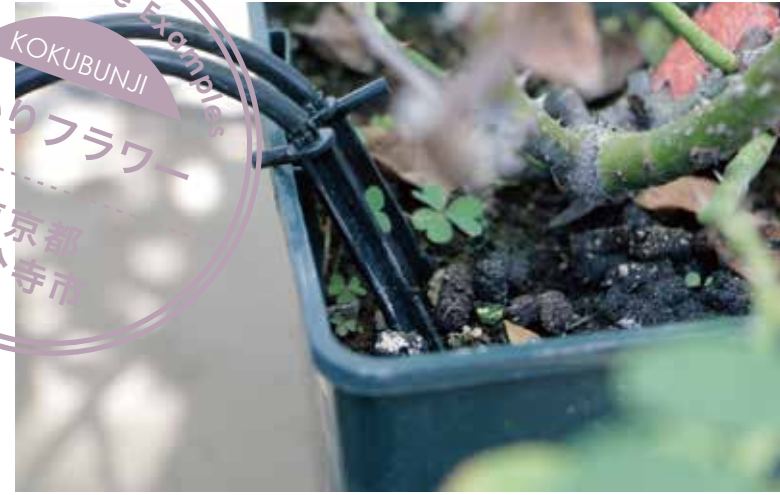


省力化  
対策 Support  
Case  
Examples  
**2014**

ひかりフラワー  
**鉢植えバラの自動灌水装置を設置し、  
省力的な管理を実現**

相談内容

ひかりフラワーでは、園内で育成された鉢植えのバラやバラ苗を販売しています。従来はスタッフが個々の鉢に手灌水を行っていましたが、バラの栽培量が多くなったことで灌水作業に時間と手間がかかるため、省力的な灌水方法に関するご相談をいただきました。



支援内容

灌水作業の労力的負担の軽減と灌水の量の無駄防止を目的とした自動灌水システムを提案しました。低コストで、組み立てやメンテナンスが可能な点滴灌水システムの部品を活用したシステムを提案しました。実現した灌水装置は順調に動いており、労力削減の効果が見え始めています。

デザイン Support  
Case  
Examples  
**2014**

加藤ファーム  
有名シェフから地元の子どもたちまで、  
**広く愛される  
プリン工房を目指して**



相談内容

50年近く養鶏を営む加藤ファームでは、酵母などの入った餌で生産したこだわりの卵と、この卵を使ったプリンの製造・販売を行っています。特にプリンには有名シェフが絶賛し、都内の高級レストランなどにも出荷されるほどの高評価を得ています。さらに加藤ファームの存在を地域の人々にも知ってもらい、直売所での販売を強化するために看板デザインのアドバイスに関するご相談をいただきました。



支援内容

加藤ファームのプリンは、以前に有名シェフのブランドで発売されたこともあり、高級なイメージを損わないことと近くに幼稚園もあることから、子どもたちにも分かりやすく親しみをもたれるデザインを希望されていました。また、加藤ファームの卵で作られたプリンは、東京地域特産品認証食品として認証されています。そこで品格があり、鶏から卵、卵からプリンが誕生するというシンプルなイメージをベースとした看板デザインを提案しました。





流通  
Support Case Examples  
2014

TOKYOX 生産組合

# トレーサビリティシステムの効率化で、 更に安定したTOKYO Xの流通を実現

納品処理	
(管理方法: 個体管理/耳標)	
事業年度	生産者コード
出荷年月日	20141024
と畜年月日	20141024
加工年月日	20141028
納品年月日	20141028
出荷ロット	抗生物質残留検査



## 相談内容

TOKYO X (トウキョウ・エックス) とは、良質な品種の豚を掛け合わせて開発された東京の銘柄豚です。高品質の TOKYO X を安心して消費者に食べてもらうために、豚の発育期ごとの飼料などの生産履歴から出荷されるまでの経過を 1 頭ずつ個別管理するトレーサビリティシステムを採用しています。しかし、現行のシステムでは非効率な作業が多くあり、人為的ミスが多発や運用コストの上昇が問題となっています。そこでシステムの更新に伴い、これまでに発生している問題点を改善した新しいシステムを導入したいとのご相談をいただきました。



## 支援内容

これまでのトレーサビリティシステムのフローでは以下の問題が発生していました。

- ・データの入力が煩雑で作業者の負担が大きい
- ・紙ベースでの管理が含まれている
- ・使われていないシステムやデータが多数存在する
- ・個人情報検索が不便

そこで専門家を交えた打ち合わせの結果、現行のフローを最大限に生かしながら下記の改善内容でシステムの開発を進めています。

- ・現状システムをクラウド化し、不要な作業を削減する
- ・データの入力方法を簡潔にする
- ・個人情報検索を、個体識別番号で行えるようにする。

新システムでは効率的で安定した運用が可能になり、より安全に TOKYO X をお届けできるようになります。

(本システムは東京都の「農業経営サポート事業」を活用して本格運用を目指しています)

講演会の開催  
Support Case Examples  
2014

小笠原諸島の農業

# 亜熱帯農業の安定化に向けて、 ブランディングへの取り組みを提案

## 相談内容

世界自然遺産の小笠原諸島では亜熱帯性気候を活かしたパッションフルーツやミニトマト、マンゴー、レモン等の栽培が行われています。これらの農作物は島内消費や観光客へ販売されています。今回は農業経営の安定化を図る取り組みの一環として、農業セミナーで講演会開催のご依頼をいただきました。



## 支援内容

「島しょ地域における産地形成」をテーマに、父島と母島で現地を視察し、各島で農業セミナーを開催しました。

セミナーでは主にブランディングの考え方や、他地域の取組事例、周囲を巻き込んだ取組の進め方について説明を行い、参加した農業者とディスカッションをしました。



[ チャレンジ農業支援センターとは ]

「チャレンジ農業支援センター」は、都民ニーズに即応した収益性の高い東京独自の農業経営を実現したいと考える農業者のみなさまの創意工夫とチャレンジをサポートします。

支援の内容

相談

農業者のみなさまが、現在の経営の改善や新たな経営へ挑戦する際に相談したい、アドバイスが欲しいことについて、センターのスタッフが直接訪問するかセンターで話をうかがい、解決のためのサポートを行います。また、相談の内容により、普及センターなどの関係機関と連携してサポートを行います。

専門家の派遣

センタースタッフとの相談で明らかとなった課題を解決するために、申込みいただいたみなさまのところに適切な専門家を派遣して、直接アドバイスを行います。

※専門家は5回まで派遣が可能で、費用は無料です。  
※専門家の派遣に際してはセンタースタッフが原則同行します。

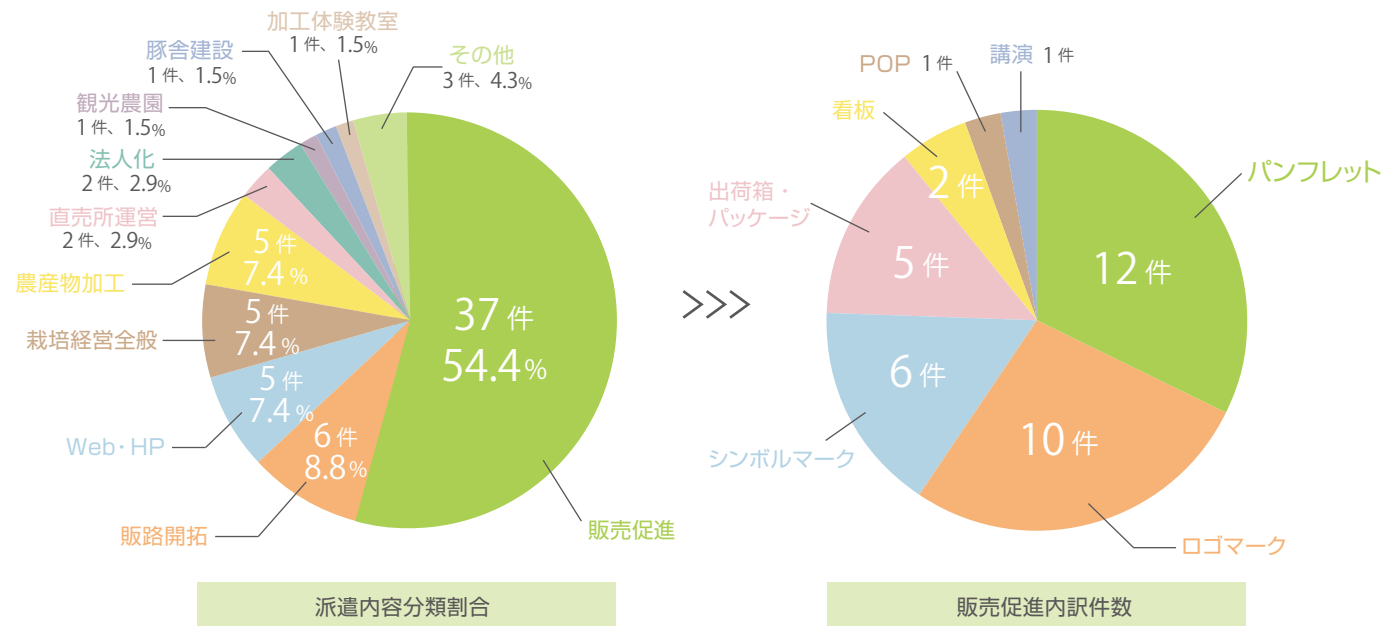
講演会の開催

独自の創意工夫により新しい農業経営を実現している農業者の方などを講師に招いて年5回の講演会を開催します。

派遣内容分類と販売促進の内訳について

(平成27年1月末実績)

相談申込まれた依頼内容の分類と販売促進の内訳です。



対象者となる方は

1 東京都内の全ての農業者 (法人も含む)

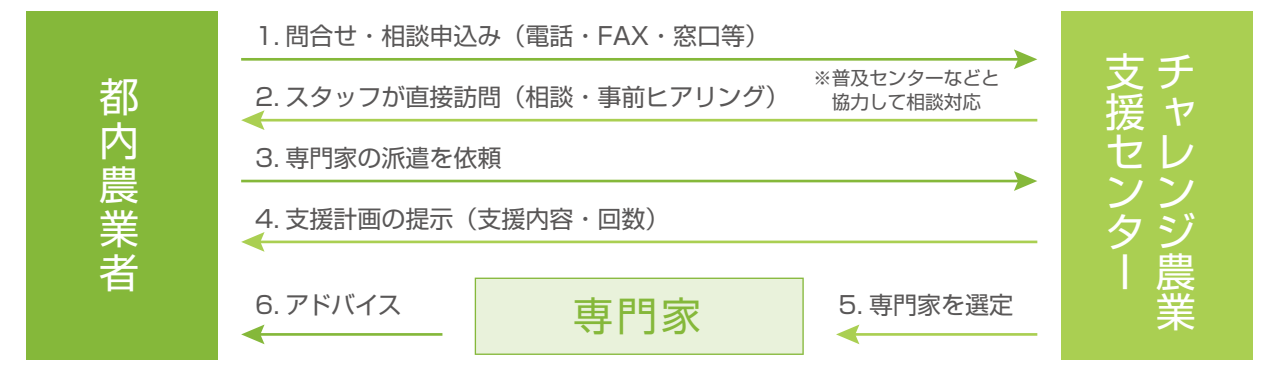
※これから就農を予定している後継者等も対象になります。

2 農業者が構成するグループや団体

こんな時にアドバイスが受けられます

- 収益性の向上に向けて、生産や販売など経営全体を見直したい
- これまでの流通形態を見直して新しい販路を開拓したい
- 育てた野菜を使った加工品を開発して、販売したい
- 農畜産物をアピールするために、袋やシールのデザインをつくりたい
- 仲間と共同事業のやり方を勉強するための研修会を開きたい
- 農家レストランを開業して経営を多角化したい
- 地域特産の農産物を「ブランド化」して生産と販売を拡大したい

支援の流れ



申込み方法

- センターに直接おいでいただくか、電話でお問合わせください。
- ※センタースタッフが訪問相談の日程や進め方などを調整します。なお、相談や事前ヒアリングの結果、専門家を派遣できない場合があります。